

第二期 - ①

守れ！イチモンジタナゴ！！プロジェクト報告書

開催日：平成28年4月23日（土）

時間：13時30分～15時

場所：動物園レクチャールーム、噴水池横繁殖水槽

参加人数：17名（事前申込21名のうち4名欠席）

運営スタッフ：釜鳴，高木，精華大学板倉ゼミ学生

内容：・イチモンジタナゴについての生態や現在の状況の説明，第一期の取組紹介

- ・イチモンジタナゴを第一繁殖水槽から第二繁殖水槽への移動
- ・二枚貝を噴水池から第二繁殖水槽への移動
- ・イチモンジタナゴの生体観察
- ・開口器を用いた二枚貝の観察
- ・自己紹介

第二期「守れ!イチモンジタナゴ!!プロジェクト」がスタートし，第一期からの継続申込を含め，新しい参加者も加わりました。



イチモンジタナゴの生態，外来生物や環境の悪化による影響で絶滅の危機に瀕している状況を説明や，第一期のタナゴプロジェクトの取組みも紹介しました。

今回の主な活動は第一期で立ち上げた新たな水槽に，生体（タナゴとドブガイ）を入れる作業です。イチモンジタナゴの繁殖期は4～6月といわれています。現在，第一水槽にいる24匹を性別確認のた

め全匹捕まえ、そのうち繁殖させるタナゴ（オス2匹、メス6匹）を第二水槽へ移動させました。



右の青い水槽が第一繁殖水槽、みんなが覗き込んでいる左の水槽が第二繁殖水槽です（ちなみに第二水槽にはまだ何も入っていません）。

イチモンジタナゴは、お風呂の湯船ぐらいの大きさの水槽で飼育しているので、網で捕まえるのは至難の技です。そこで、以前の活動でも作ったペットボトル製のモンドリを用いてタナゴ達が入ってくるのを待ちました。



タナゴの餌や、赤虫等をモンドリに入れて準備します。

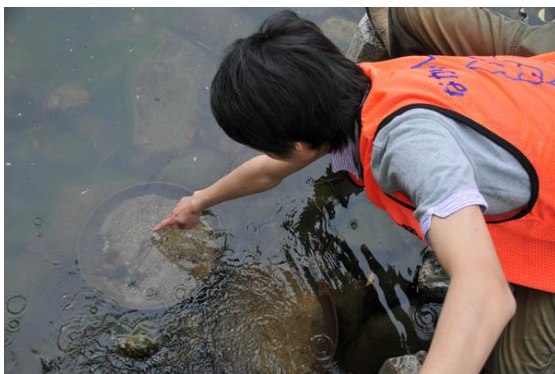


4個のモンドリを、タナゴが入りそうな場所を狙って沈めます。子供たちは、いきいきとしていて大人の出る幕はありませんでした。

タナゴがモンドリに入るのを待つ間、水槽の水の水質検査もおこないました。検査項目は、pH、アンモニア、亜硝酸、硝酸の4つです。



水質がタナゴの飼育に適しているかどうか、専用のキットのチューブで水を吸い込み、試薬に反応した水の色を調べます。



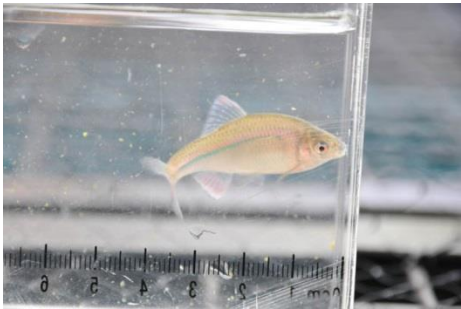
また、待ち時間に噴水池に保管しておいたドブガイを引き上げ、開口器を使ってダニが寄生していないかや、貝の中にすでに産卵されていないか等のチェックをして、第二水槽へドブガイを移動させました。



貝が移動しないよう、砂を入れた容器に貝を入れます。

モンドリを沈めてから約20分後、中に入ったタナゴをすくいます。





婚姻色の青とピンクの一文字模様がきれいに出たオスや、産卵管が伸びたメスを間近に観察し、みなさん興味津々で嬉しそうです。

一度に24匹は全部捕まえられないので、何度もモンドリを沈めてみましたが、入らない個体があるので最後は網で捕まえることになりました。



子どもたちは、身を乗り出し真剣です。私たち動物園職員や大人の参加者は、イチモンジタナゴが神経質な性格なので、ドキドキしながら見守りました。

この時点で21匹、最終的には精華大学の学生スタッフが上手に捕まえてくれました。

昨年9月にイチモンジタナゴを第一繁殖水槽に入れたときは、まだ小さくオスとメスの数がはっきり分からなかったのですが、今回の活動でオス15匹、メス7匹、性別不明2匹とかなりオスが多いことが分かりました。



これから、イチモンジタナゴの繁殖シーズンが始まります。ドブガイに産卵し、無事に孵化して稚魚が成長してくれると嬉しいですね！



この活動は、公益財団法人自然保護助成基金第 26 期（2015 年度）プロ・ナトゥーラ・ファンド助成による支援を受けて行われています。